

氏名	なかに ひろあき 中谷 浩章
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1261 号
学位授与の日付	2021 年 5 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	Prevalence and Predictors of Atherosclerotic Peripheral Arterial Obstructive Disease in Severe Heart Valve Disease (重度の心臓弁膜症におけるアテローム性動脈硬化症の末梢動脈閉塞性疾患の有病率と予測因子)
指導教員	教授 上妻 謙（板橋・内科）
論文審査委員	主査 中村 文隆 教授（ちば・第三内科） 副査 鈴木 伸明 准教授（溝口・第四内科） 副査 白鳥 宜孝 講師（溝口・第四内科）

論文審査結果の要旨

主論文「Prevalence and Predictors of Atherosclerotic Peripheral Arterial Obstructive Disease in Severe Heart Valve Disease」は International Heart Journal 61 巻 727-733 頁、2020 年に掲載された申請者が筆頭著者の共著論文である。

高齢社会の到来により、年齢とともに増加する重度の心臓弁膜症 HVD: Heart Valve Disease (AS: Aortic Stenosis, MR: Mitral Regurgitation, AR: Aortic Regurgitation) の患者は増加しており、HVD の手術件数は過去 10 年間で 73.8%増加している。Severe HVD における PAOD: Peripheral Artery Obstructive Disease の有病率と予測因子は検討されていない。

そこで申請者らは、Severe HVD における PAOD (ICAS: Internal Carotid Artery Stenosis と LEAD: Lower Extremity Artery Disease) の有病率と予測因子を検討し、以下の結果を得た。

①AS、MR、AR における ICAS の有病率それぞれ、10.9%、1.5%、3.9%認め、AS で有意に頻度が高かった。②AS、MR、AR における LEAD の有病率はそれぞれ 18.6%、10.6%、0%認め、AS で有意に頻度が高かった。③多変量解析では、AS が ICAS の、CAD の既往が LEAD のそれぞれ唯一の独立した予測因子であった。④Severe HVD 間の冠動脈血行再建率に有意差はなかった。⑤以上より特に AS においては、術前の PAOD スクリーニングが考慮されるべきである。

後ろ向きの単施設での臨床研究であり症例数が少ない、もともと術前の PAOD スクリーニングが行われた症例が対象となっており、治療介入が必要となった例は除外されており、選択バイアスの可能性がある、などの限界は認められるが、今後、弁膜症に対するカテーテル手術が増えていくことが予想され、AS 以外の HVD においても PAOD スクリーニングの有用性を証明した点については、臨床的に極めて有意義なものと考えられた。

以上のように、臨床的意義も極めて高く、かつより一層の発展が期待出来る研究であり、本論文は学位論文としての要件を十分満たしているものと考えられた。

2021 年 3 月 12 日に行われた論文審査面接において、申請者は本論文および関連領域について十分な学識を有していることが認められ、学位授与に値すると判定した